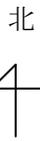
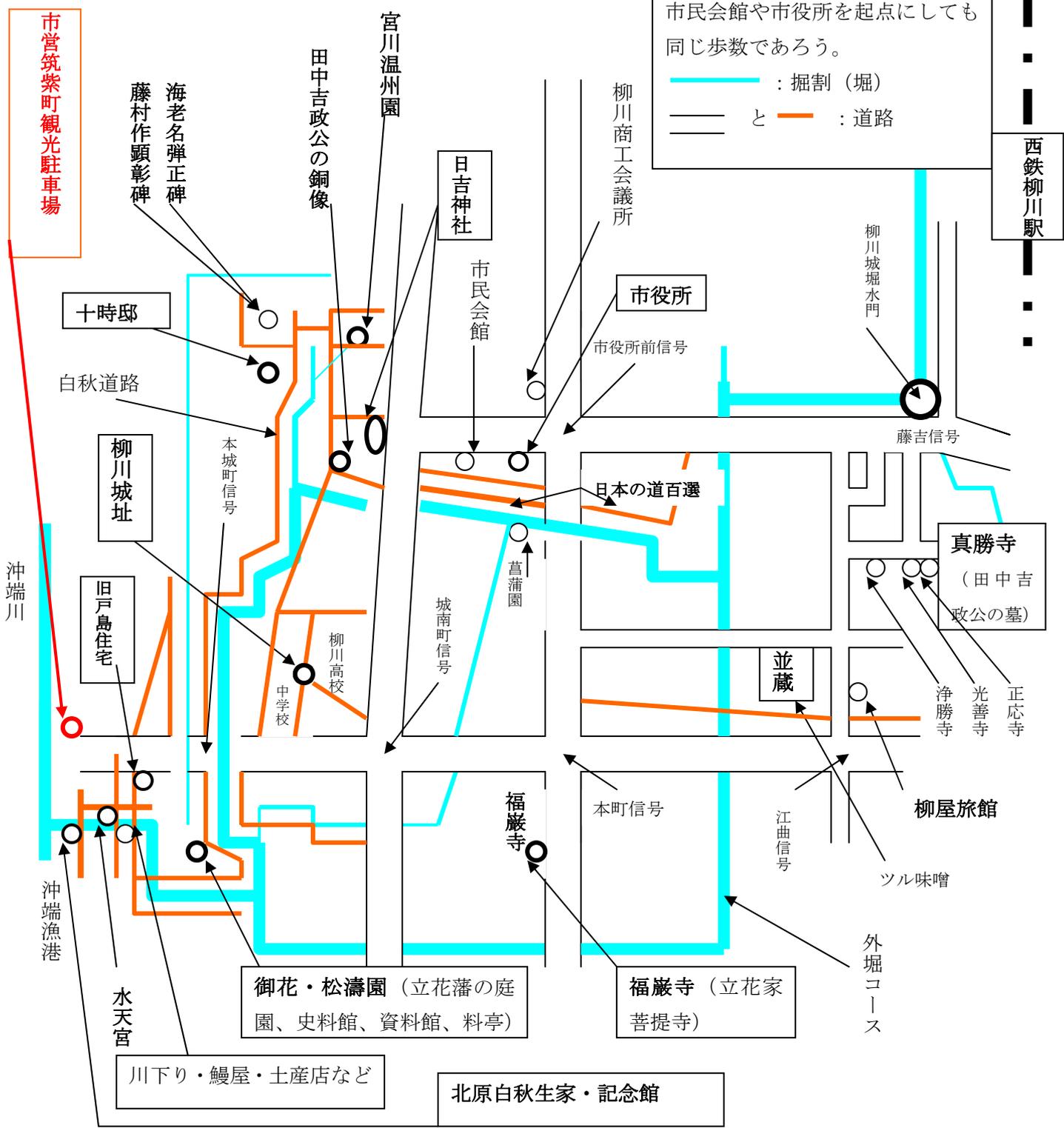


柳川市史跡名勝



ここで取り上げている史跡名勝は市営筑紫町観光駐車場から約10,000歩で一周できる。恐らく、市民会館や市役所を起点にしても同じ歩数であろう。

—— : 掘割 (堀)
—— と —— : 道路



田中吉政[1548（天文7）～1609（慶長14）年]

真勝寺（〒832-0032 福岡県柳川市新町5-10 0944-73-2239）

織豊時代の武将で、近江高島郡生まれ。関ヶ原で石田三成を捕らえた功により、筑後一国32万5千石を与えられ、柳川城に入城。キリシタン大名でもあった。田中吉政公天守閣の築造など柳川城の整備や各支城の強化、矢部川の治水事業、本土居の築堤をはじめとする干拓事業、道路の新設・整備などの土木事業に業績を残したが、1609（慶長14）年2月18日江戸参勤の途中、京都伏見で客死している。また田中吉政公は現在の柳川の堀割（水路）の基礎を築いている。



真勝寺（田中吉政公の墓）



真勝寺（田中吉政公の墓）



真勝寺（田中吉政公の墓）



田中吉政公の銅像（日吉神社境内の川下り場近く）

立花宗茂[1569（永禄 12）～1642（寛永 19）年]

福巖寺（〒832-0046 福岡県柳川市奥州町 3 2-1 0944-74-0033）

織豊・江戸前期の武将。筑前岩屋城主高橋紹運[たかはし じょううん：1548（天文 17）～1586（天正 14）年：天正 12 年筑後猫尾城攻撃中、筑紫広門に宝満城を占領されるが、和議を結ぶ。天正 14 年岩屋城を島津氏に攻められ討たれた。]の長男。筑前立花城立花鑑連[たちばな あきつら：1516（永正 13）～1585（天正 13）年]後立花道雪となる。豊後鎧岳城主であり、大友宗麟の加判。1571（元亀 2）年立花家を継ぐ。]の養子となり、1585（天正 13）年家督を相続。1587（天正 15）年豊臣秀吉の島津征伐に従い、その功により筑後四郡のうち約 13 万石を与えられ筑後柳川城主に封じられた。関ヶ原の戦いでは西軍に属して、領地を没収されたが、陸奥棚倉藩 1 万石が許されていたが、大坂兩陣の功により 1620（元和 6）年に柳川の旧領を回復している。宗茂は 15 歳のとき、立花道雪のひとり娘閨千代[ぎんちよ、当時 13 歳：1569（永禄 12）～1602（慶長 7）年、菩提寺は良清寺、〒832-0015 福岡県柳川市西魚屋町 4 9 0944-72-4092]と結婚し、立花家の養子になっている。なお、福巖寺には宗茂の岳父である戸次道雪（べっき どうせつ：立花鑑連、立花道雪）、檀一雄、長谷健の墓もある。



福巖寺



福巖寺



福巖寺



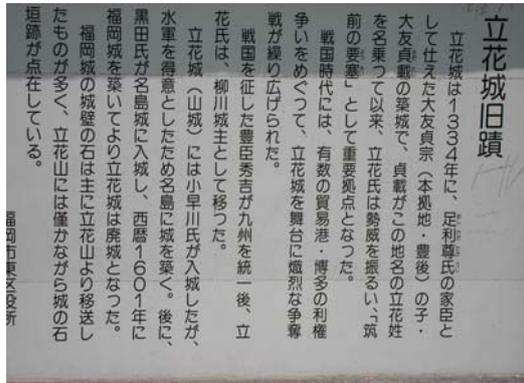
岩屋城址本丸跡の碑（太宰府市）



岩屋城址高橋紹運の墓（太宰府市）



立花城址（福岡市東区、粕屋郡新宮町）



立花城址（福岡市東区、粕屋郡新宮町）



粕屋郡新宮町 梅岳寺（立花道雪の墓）

柳川城址（柳川市大字本城町 88 の 2 番地）

柳川中学校と柳川高等学校の校地が城地。もともとは蒲池筑後守治久が築城。1581（天正 9）年、蒲池民部少輔鎮漣は龍造寺隆信に謀殺され蒲池氏は滅亡。1587（天正 15）年、立花宗茂の居城となっている。



柳川城址



柳川城址

北原白秋（きたはら はくしゅう：[1885年（明治18）～ 1942年（昭和17）年]
日本の詩人、童謡作家、歌人。本名は北原 隆吉（きたはら りゅうきち）。天井の梁には水害のための準備として船がある。

〒832-0065 福岡県柳川市沖端町 5 5 - 1 0944-72-6773

沖端水天宮（〒832-0066 福岡県柳川市稲荷町）

柳川川下り・うなぎセイロ料理で有名な福岡県柳川市矢留地区にある沖端水天宮は140年続く水天宮である。1869（明治2）年に久留米水天宮から勧請（かんじょう）（神仏の分霊を他の地に祭ること）され、同地区内にあった稲荷神社、弥剣神社（祇園社）の3社を合祀し、祭神は安徳天皇である。



沖端水天宮



沖端水天宮由緒



川下りと鰻や



御花近くの川下り

柳屋旅館（福岡県柳川市三橋町江曲 2 2 5-1 0944-72-2279 ）

この付近一带は蔵の町並み（並蔵）で、コマースルでおなじみの鶴味噌の鶴味噌醸造株式会社もある。



並蔵にある柳屋旅館（左側が鶴味噌）



並蔵にある鶴味噌のコマースルの蔵（川下りの水路がある）

日吉神社（〒832-0076 福岡県柳川市大字坂本町 7 0944-72-3357）

柳川市街で産土としての役割を果たしている神社で、1290（正応3）年に近江の日吉大社を勧請したのに由来している。その後蒲池氏が柳川城を築いた際、その鎮守になったとされており、蒲池氏滅亡の後には立花宗茂や田中吉政によって神領を保護され、とくに1696（元禄9）年には社殿の再興がはかられるなど、代々の藩主の尊崇を集めてきた。境内には柳川出身の作家長谷川健の文学碑、うなぎ供養碑など多くの石碑が建てられています。



日吉神社



日吉神社境内



日吉神社境内にある長谷健文学碑と
木村緑平句碑



日吉神社の裏（西側）にある田中吉政
公の銅像

長谷健 [1904 (明治 37) ~1957 (昭和 32) 年]

昭和期の小説家、児童文学者。東京で小学校教員をする傍ら、同人誌に参加。1939 (昭和 14) 年『あさくさの子供』で芥川賞受賞。ほかに北原白秋を描いた 1955 (昭和 30) 年『からたちの花』、1950 (昭和 25) 年『春の童話』という児童文学などの作品があるが、1957 年 12 月に交通事故で死去。

木村緑平[1888 (明治 21) ~ ?]

木村緑平は医師として病院に勤務するとともに、萩原井泉水に師事して、俳諧の地位を得た俳人である。種田山頭火と親しかったとのことである。

宮川温州園 (柳川市坂本町)

現在、早生温州みかんの一種として広く普及している「宮川早生」の原木の発祥地で、顕彰碑が建立されています。宮川早生は味の「まろやかさ」が特徴の温州みかんで、1910 年頃に福岡県山門郡城内村 (現柳川市) の医師で旧柳川藩主伯爵立花寛治の勸農殖産の志をうけた宮川謙吉邸にて発見された枝変わりを、1925 年に田中長三郎によって発表された。育てやすく収量性が良いなど優れた特徴を持つため、古くから全国的に広く栽培されています。



宮川温州みかん発祥の地



宮川早生温州顕彰の碑

海老名 弾正[えびな だんじょう：1856（安政3）～1937（昭和12）年]

明治・大正期のキリスト教指導者。柳川藩士の子。1872（明治5）年熊本洋学校に入学。1876（明治9）年花岡山の奉教に参加し、ジェーンズから洗礼。同志社に転じ、1879（明治12）年卒業後、安中教会牧師。1887（明治20）年熊本教会牧師となり、熊本英学校、熊本女学校を創設。1897（明治30）年東京で基督同志会を組織し、本郷教会を再建しその牧師となる。1900（明治33）年雑誌「新人」を創刊し、同誌上で植村正久と論争。1920（大正9）年同志社総長。著書に『基督教十講』および『基督教新論』などがある。

藤村 作[ふじむら つくる：1875（明治8）年～1953（昭和28）年]

大正・昭和期の国文学者。1922（大正11）年東京帝国大学教授。のち東洋大学長。「国語と文学」、「国文学解釈と鑑賞」、「日本文学大辞典」を編纂した。1946（昭和21）年日本文学協会を設立し会長。著書に『上方文学と江戸文学』など。



海老名弾正の碑



藤村作の碑

[白秋道路（掘割沿い：西側）]



掘割での「くも手網」



十時邸（〒832-0069 柳川市新外町57）

十時邸は江戸時代後期の武家住宅。木造葦葺一部瓦葺の建物で、後に離れの仏間が造られている。8畳敷きの座敷に同じ8畳敷きの次の間が付くという珍しい作りとなっている。典型的な柳川の武家屋敷です。



旧戸島家住宅（〒832-0026 柳川市鬼童町49-3）

旧柳川藩士の隠宅として建てられた数寄屋風の意匠を持つ葦葺屋根の建物で、庭園の池は堀割から水を引いている。内部には、江戸後期の流行を反映した文人趣味の意匠が施されている。戸島家は柳川藩で中老職の要職に就いていた吉田兼備が隠居後の住処として庭園と共に建築した葦葺二階建ての建物であり、後に藩主の立花家に献上されたとされている。





[日本の道百選]





(参考文献)

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995.

吉永正春『九州戦国の武将たち』海鳥社,2000.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999.